

28年4月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成28年4月1日～ 28年4月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/4月	5月	6月
入荷動向	国産材	0.0	30.0	30.0
	外材	△ 50.0	0.0	16.7
在庫動向	国産材	25.0	37.5	37.5
	外材	△ 50.0	△ 33.3	0.0

・国産材ラミナの入荷は4月の横ばいが、5月、6月は増加。外材は4月の減少が、5月横ばい、6月は増加。

・国産材ラミナの在庫は3ヵ月連続して増加。外材は4月、5月の減少が、6月は横ばい。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/4月	5月	6月
国産材	0.0	0.0	0.0
欧州材	△ 16.7	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナ購入価格は、3ヵ月連続して横ばい。欧州材は4月の弱含みが、5月、6月は横ばい。その他材は、3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギ入荷は前月同様横ばい。岩手県内のラミナは、製材所がカラマツ丸太の手当てに苦戦している状況。一定量以上は見込めない。北海道は雪解けの等の影響により、時期的に丸太不足ではあるが、4月は順調に手当て出来ている。スギ在庫は輸入材の代替え等でスギEW管柱が不足感があるが、相場が安い事もあり、出荷量は増やせないためやや増加している。カラマツは適正在庫に近い状況にはなっているが、5月頃には、雪解けの影響により出材が少なくなっていることから、やや減少と見込む。

・国産材は乾燥機のメンテのため入荷をストップした。外材は今月入荷少ない。在庫は4月の入荷が少ないため減少する。

(ラミナ価格動向)

- ・スギ・カラマツ共に横ばいである。
- ・外材の単価上げ分は為替で相殺され、原価は上がらない。

28年4月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/4月	5月	6月
生産動向	国産材	10.0	40.0	40.0
	WW集成管柱	△ 16.7	△ 16.7	16.7
	RW集成平角	△ 16.7	0.0	16.7
	米マツ集成平角	0.0	25.0	25.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	10.0	40.0	20.0
	WW集成管柱	0.0	△ 16.7	0.0
	RW集成平角	0.0	16.7	0.0
	米マツ集成平角	0.0	25.0	25.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は3ヵ月連続して増加。WW集成管柱及びRW集成平角は、4月、5月の減少ないし横ばいが、6月は増加。米マツ集成平角は4月の横ばいが、5月、6月は増加。

・国産材集成材の出荷は、3ヵ月連続して増加。WW集成管柱は4月の横ばいが、5月は減少、6月は横ばい。RW集成平角は4月の横ばいが、5月は増加、6月は横ばい。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	28/4月	5月	6月
スギ集成管柱	0.0	0.0	12.5
ヒノキ集成柱	0.0	50.0	50.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	16.7	33.3	0.0
RW集成平角	0.0	0.0	0.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	0.0	0.0	0.0
米ヒバ土台角	—	—	—
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ集成管柱の出荷価格は4月、5月の横ばいが、6月はやや強含み。ヒノキ集成柱は4月の横ばいが、5月、6月は強含み。ヒノキ及びカラマツ集成土台は3ヵ月連続して横ばい。

・WW集成管柱は4月、5月の強含みが、6月は横ばい。

・RW集成平角、米マツ集成平角、WW集成平角及びカラマツ集成平角は、3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

・生産は2月から次第に落ち着きを見せ、4月は荷動きは良くない。5月連休前の在庫調達の動きは予想されるが、全体的に減少。4月は関東方面の荷動きが悪く、出荷量は減少している。東北地方は災害公営住宅を中心に動きが出始めた。スギEW管柱が一時的にひっ迫している模様だが、相場が安くなっているため出荷量も増やすことが出来ない。

・生産はラミナ事情に合わせてとなるが、生産キャパに準じた形で推移の見込み。6月からは需給バランスが崩れる可能性がある。

(構造用集成材出荷価格動向)

・スギ一般流通価格は継続的に弱含んでいるが、弊社は横ばい。カラマツは岩手県・北海道共に高値安定の状況が続いているため、製品価格も横ばい。

・6月から下がる可能性がある（需給バランスが崩れた場合）。